

大和葛城山にて春を送る

歩き易くなったか「櫛羅の滝コース」登山道

大和葛城山の櫛羅(くじら)の滝コース登山道は長期にわたる改修工事で通行止めになっていたが、今年初めに解禁されている。

この山の花々に会いたいと思い、5月初め、このコースから入山した。

シバザクラとオオデマリの出迎え

早起きして、バイクで葛城ロープウェイ登山口駅前に7:30着。眼前にピンクの丘が朝陽に照り輝いている。公園の斜面にシバザクラが植えてあるのだ。ツツジの季節を迎えて初めての試みだそう。また駅舎の近くの不動寺には幾株ものオオデマリが満開の純白の花を惜しげもなく見せてくれる。嬉しい出迎えだ。↓オオデマリ



シバザクラ

動物除
けフェン

スをくぐって、登山道に入る。北尾根コースの分岐を見送り、川を渡ってジグザグに歩いて7時50分櫛羅の滝に到着。沿道にはクサノオウ、ミヤマキケマン、ムラサキケマン、ヤマブキ、クサイチゴなどが咲いていた。

危険個所に擬木(ぎぼく)の階段と手すり

ここから山道に入る。人工林の中を登るが、従来の登山道は傾斜もきつく、風水害による崩落・破損もあって、脇道が自然とできていた。そして危険個所も少なくなかった。今回、そうした所には迂回路が作られ、頑丈な擬木の階段と手すりが設けられている。以前の道と比べると、わかりやすく、はるかに安全になっている。本当に有難いことだ。

林の切れ目の斜面にはイカリソウやヤマブキ

人工林の地面には花は少ないが、チゴユリが何カ所かで小さな群落をつくっていた。そして林の切れ目の斜面には、キバナイカリソウ、ヤマドリソウが咲き競っており、黄金(こがね)色のヤマブキが新緑とのコントラストも鮮やかに浮き立って見えた。

傾いていた栈道も一新

8合目から9合目への道は山の急斜面を横切っており、ここにかかっていた栈道が古く、踏板にも壊れた箇所が幾カ所あった。なんとといっても栈道そのものが谷側に傾き、細い樹に結わえられたロープによって吊り下げられているよう

↓シュンラン

な状態だったが、これが一新され、安心して渡れるようになっていた。周囲を愉しむ余裕もでき、二株のシュンランを見つけた。

初夏へと向かう自然林

やがて、見上げる斜面は一面の自然林となり、ミツバツツジのピンクの花が周囲の新緑を際立たせている。ヤマツツジもつぼみをたくさん並べて出番待ちと言うところか。

自然研究路の花たちも

10:30 自然研究路に入る。ウグイスのさえずりが高く響き、どこからかキツツキのドラミングが響いてくる。足元にはニシキゴロモが可愛い花を

←ヤマブキ 見せ、キイチゴ(木苺)の仲間たちがそれぞれの花を吊り下げている。ツクバネウツギ





↓カタクリ

を開いている株もあった。



春の妖精(スプリング・エフェメラル)たち、来年、またの再会を。



↑ツクバネウツギ



↓ヤマドリソウ



↑ショウジョウバカマ



↑ニシキゴロモ
ミツバツツジ



も花を満載、あふれた花が地表に散り敷かれている。

春を惜しむか、カタクリ、ショウジョウバカマ

林床での主役の座を退いた形だが、カタクリもまだ咲き残っていた。花の色は褪せているが、まだら模様のある葉をいっぱい広げて、間もなく始まる休眠の準備に怠らない。

ショウジョウバカマの群生地でも、すでに花を閉じた仲間たちに伍して、花茎

↓キバナイカリソウ

をぐーんと伸ばして種子の散布に備えつつ、花

従来の登山路の両側斜面が崩落した現場→



←新設された階段と手すり

テゴユリの群落→

